

2013年夏期 ピースボート地球大学

「世界に学べ!脱原発とこれからのエネルギー」

第80回ピースボート 地球一周の船旅

報告書

作成日:2013年12月27日



目次

I. 80回ピースボート地球大学概要	P. 2
II. STEP 1 乗船前	P. 2
III. STEP 2 地球一周	P. 3
1. UNIT 1 「インドで考える、地域主体のエネルギー」...	P. 5
2. UNIT 2 「ドイツで学ぶ、原発のいない社会づくり」.....	P. 7
3. UNIT 3 「『原発のない社会』に向けて」.....	P.10
4. 地球一周まとめ.....	P.10
IV. STEP 3 下船後	P. 12

地球大学とは

ピースボート地球大学「地球一周の船旅」を活用し、乗船前・下船後の活動を含めたカリキュラムを組んだ、「アクティビストを育てる」ためのプログラムです。訪れる各地域での現場体験と洋上プログラムを合わせ、地球規模の問題を自分の問題として考える視点を養います。

平和な社会を築く当事者として、これから NGO・NPO や国際機関、地域活動など、さまざまな領域で活躍したい人が、必要な知識や経験、行動力を身につけ、世界に羽ばたくことを目的としています。

I. 80回ピースボート地球大学 概要

【全体テーマ】 「世界に学べ!脱原発とこれからのエネルギー」

【概要と目的】

3.11以降、脱原発を願う声は圧倒的な多数であるが、エネルギー受給、雇用や経済などの難問が多く残るとしてその実現への道筋は未だ見えていない。今回の地球大学では、地球一周で訪れるインドとドイツの具体例をとおり、世界各地で人々が直面するエネルギーとそれに付随する問題を理解し、それぞれの地域で行われている解決のための取り組みを知る。また、福島原発事故の現状や日本の政治・社会のあり方、エネルギー事情を考察する。こうした学びをとおり、原発のない社会を実現するための具体的方法を探り、持続可能な社会を創るために必要なこと、自分にできることを考える。これらを乗船前・地球一周・下船後の学習をとおりして学習する。

【受講生】 32名(18歳～33歳。福島から乗船した7名の学生含む※)

※ピースボートと福島大学災害復興研究所の協力のもと「福島ユースプロジェクト」として福島大学の学生6名がキプロス～横浜区間に乗船。また、ピースボートと「高校生平和大使」運動事務局(長崎市)の協力のもと「フクシマ・アウェアネス・プロジェクト」として日本大学工学部(福島県郡山市)の学生1名がキプロス～パナマ区間に乗船。それぞれ、福島の現状を世界に発信し、原発に頼らない新しいエネルギーや社会のあり方について考えることを目的に乗船した。

II. STEP1 乗船前 ～情報を知識へ～

【期間】 2013年5月～7月

【必修・推薦資料】

クルーズ乗船前の事前学習の一環として、『原発とサヨナラする54の理由』(飯田哲也著/牧野出版/2012年)、『ドイツは脱原発を選んだ』(ミランダ・シュラーズ著、岩波書店、2011年)などの書籍、『“核のゴミ”はどこへ～検証・使用済み核燃料』(NHK/2013年)などの視聴覚資料を必修資料としたほか、多数の図書を推薦とした。

【事前合宿】

5月3日～5日 神奈川県相模原市(旧藤野町)にて持続可能な暮らしを実践する地域住民による「トランジション藤野」(<http://blog.canpan.info/team-80/>)の受け入れのもと、エネルギーに関するレクチャー、ソーラーパネル設置作業、森と持続可能性に関するレクチャー、間伐作業、食に関するレクチャー、マクロビオティック料理体験、などを行った。



事前合宿にて設置したソーラーパネル

【勉強会】

ピースボートセンターおおさか(6月20日)およびピースボートセンターとうきょう(6月24日)にて、それぞれ気候変動に関する映像を見た後にワークショップを行う勉強会を開催した。

III. STEP2 地球一周 ～知識を経験へ～

ピースボート第80回地球一周の船旅 に乗船

【期間】 2013年7月18日(木)～10月10日(木) <85日間>



2013年				
日付	Port	概要	ユニット	ナビゲーター
1	07.18	横浜		
2	07.19			
3	07.20	オリエンテーション		
4	07.21	ゼミ		
5	07.22	ゼミ		
6	07.23	ゼミ		
7	07.24	ダナン(ベトナム)		
8	07.25	ダナン(ベトナム)		
9	07.26	ゼミ		
10	07.27	ゼミ		
11	07.28	シンガポール		
12	07.29			
13	07.30			
14	07.31			
15	08.01			
16	08.02			
17	08.03	コーチン(インド)		
18	08.04	休み		
19	08.05	ゼミ		
20	08.06	ゼミ		
21	08.07	ゼミ		
22	08.08	ゼミ		
23	08.09	ゼミ/ユニット1報告会		
24	08.10	ゼミ		
25	08.11	ゼミ		
26	08.12	ゼミ		
27	08.13	ゼミ		
28	08.14	スエズ運河		
29	08.15	リマソール(キプロス)		
30	08.16	福島の学生合流 ゼミ		
31	08.17	クシャダス(トルコ)		
32	08.18	ピレウス(ギリシャ)		
33	08.19			
34	08.20	パレット(マルタ)		
35	08.21			
36	08.22	チビタベッキア(イタリア)		
37	08.23	チビタベッキア(イタリア)		
38	08.24	モナコ		
39	08.25	マルセイユ(フランス)		
40	08.26	バルセロナ(スペイン)		
41	08.27	ゼミ		
42	08.28	マラガ(スペイン)		

日付	Port	概要	ユニット	ナビゲーター
43	08.29	カサブランカ(モロッコ)		
44	08.30	ゼミ		
45	08.31	フンシャル(ポルトガル)		
46	09.01	休み		
47	09.02	ゼミ		
48	09.03	ゼミ		
49	09.04			
50	09.05	ユニット2報告会		
51	09.06			
52	09.07	ゼミ		
53	09.08	ゼミ		
54	09.09	サントドミンゴ(ドミニカ共和国)		
55	09.10	ゼミ		
56	09.11	モンテゴベイ(ジャマイカ)		
57	09.12	ゼミ		
58	09.13	クリストバル(パナマ)		
59	09.14	パナマ運河		
60	09.15	ゼミ		
61	09.16	ゼミ		
62	09.17	アカフトラ(エルサルバドル)		
63	09.18	アカフトラ(エルサルバドル)		
64	09.19	ゼミ		
65	09.20	ゼミ		
66	09.21	マンサニージョ(メキシコ)		
67	09.22	休み		
68	09.23	ゼミ		
69	09.24	ゼミ		
70	09.25	ゼミ		
71	09.26	ゼミ		
72	09.27	ゼミ		
73	09.28	ゼミ		
74	09.29			
75	09.30			
76	10.01	消滅日		
77	10.02			
78	10.03	最終報告会		
79	10.04			
80	10.05			
81	10.06	卒業式		
82	10.07			
83	10.08			
84	10.09	石巻		
85	10.10	横浜		

【ナビゲーター】

ユニット1 木村真希子 [市民外交センター副代表／津田塾大学准教授]

2001年インド・ジャワハルラール・ネルー大学にてPh.D取得(社会学)。専門は社会学(エスニシティ論)など。国際人権NGO市民外交センターなどの活動を通して、日本やアジアの先住民族運動の支援に携わる。共著に『市民の外交―先住民族と歩んだ30年』法政大学出版会(2013)など。

ユニット2 ミランダ・シュラーズ [ベルリン自由大学環境政策研究所所長]

2011年よりドイツ政府「安全なエネルギー供給に関する倫理委員会」委員。福島原発事故後におけるドイツの脱原発に向けた政策転換に大きな影響を与えた。著書に『ドイツ脱原発倫理委員会報告: 社会共同によるエネルギーシフトの道すじ』大月書店(2013)など。

ユニット3 リカルド・ナヴァロ [国際環境団体「FoE インターナショナル」元代表]

エルサルバドル出身、ゴールドマン環境賞や国連名誉500賞など数多く受賞する世界的な環境活動家。エルサルバドル最大の環境NGO「セスタ(CESTA)」創設者でもある。ゴミ問題などの地域環境保全活動を行いながら海洋汚染や地球温暖化など地球規模の問題でも活躍する活動家。

【関連水先案内人など】

豊田直巳(フォトジャーナリスト)、前田哲男(軍事評論家)、鎌田慧(ルポライター)、伊藤千尋(朝日新聞記者)、キャスリン・サリバン(軍縮教育家)、松村豪太(ISHINOMAKI 2.0)、イラン(テヘラン平和博物館)からのインターナショナル・スチューデント(IS※)、広島・長崎の被爆者の方々(「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」参加者)

※インターナショナル・スチューデント(IS)とは、ピースボートの海外の大学やネットワークから乗船し、地球大学生とともに学ぶ若者たちのこと。

【エクスポージャー・推奨ツアー】

ユニット1エクスポージャー:7月28日～8月3日 (インド) 「ケーララ州で考える開発とエネルギー」

ユニット2エクスポージャー:8月18日～8月23日 (ドイツ) 「ドイツで学ぶ、原発のない社会への転換」

推奨ツアー1:8月25日 マルセイユ(フランス) 「フランスで学ぶ 未来のエネルギー」

推奨ツアー2:9月17日～18日 アカフトラ(エルサルバドル) 「『環境にやさしい』生活を学ぶ」

【GET(グローバル・イングリッシュ・トレーニング)】 60分×25回

5～10名のレベル別クラスにて、ユニットで扱うテーマなどを題材とした英会話・ディスカッションなどの練習を行った。

1. UNIT 1 「インドで考える、地域主体のエネルギー」

横浜～コーチン区間(7月20日～8月3日)

小規模な再生可能エネルギーの自給プロジェクトなど、地元住民が主体となる独自の地域開発を進めるケーララ州を例に、貧困・開発とエネルギーについて学び、豊かな地域社会とは何かを探った。

ナビゲーター:木村真希子[市民外交センター／津田塾大学](横浜～コーチン区間乗船、インドエクスポージャーに同行)

【洋上プログラム】

▼概要 ゼミや必修講座などをとおして世界の貧困問題、インドの社会と政治、開発と持続可能性などに関する基礎知識をつけた。また多くの参加型ワークショップを通し、得た知識を多角的に捉えること、意見交換をしながら自らの考えを建設的に構築する訓練などを行った。インドでのエクスポージャーの前にこうした知識や考え方の基礎を身につけることに重点を置いた。

◇ゼミ 90分×7回／必修講座 80分×3回／映画を使った学習×1回／補修×数回

▼スケジュール

日付	タイトル	内容
7/18		横浜出航
7/19	オリエンテーション	自己紹介、地球大学の案内
7/20	ゼミ①	ユニット1導入、チームビルディングワークショップ
7/21	必修講座	木村真希子「インドの紛争と貧困」
	ゼミ②	貧困問題概論:定義・現状、インドの貧困の歴史と現状、インド現代史
7/22	ゼミ③	エネルギーと持続可能性
7/23	ゼミ④	エネルギーと貧困問題
7/24		ダナン
7/25		ダナン
	映像 必修講座	(出港後)映画『スラムドッグ・ミリオネア』 川崎哲「世界の核兵器の現状」
7/26	必修講座	木村真希子「インドの経済成長と開発、その光と影」
	ゼミ⑤	南インド・ケーララ州概要、ケーララ州の社会状況の現状と特殊性
	ゼミ⑥	インドエクスポージャーに向けて 訪問地紹介および説明
7/27	ゼミ⑦	経済発展・開発と人権
7/28 ～ 8/3		インドエクスポージャー (シンガポール～コーチン)
8/9		ユニット1報告会

【エクスポージャー】 「ケーララ州で学ぶ開発とエネルギー」

▼日程 7月28日～8月3日 シンガポール～コーチン区間6泊7日

▼概要と目的 南インドにて独自の開発モデルを確立するケーララ州にて、地域主体で行うエネルギーをはじめとするさまざまな開発プロジェクトを見学する。また、同じくケーララ州の村にてホームステイをし、インド農村部の生活を体験するとともに開発プロジェクトがどのように人々の生活に貢献しているかを見聞する。



▼カウンターパートナー／受け入れ先 ケーララ民衆科学運動(KSSP)

1962年に設立されたインドのNGO。科学の民衆化、地域の識字率向上などさまざまなプロジェクトを行う中でケーララ州独自の開発モデルを作り上げてきた。<http://www.kssp.in/>

▼主な訪問地と内容 南インドケーララ州にあるKSSPの研修施設「統合地方技術センター(IRTC)」にてバイオガスプラント、無煙かまど、ソーラーパネルなど、地元住民が自ら手がけることのできる様々なプロジェクトを見学。また、同センター代表サシドラン・ピライ博士より原子力と持続可能性に関するレクチャーを受け、Q&A。エレバンチェリー村にて村議会を訪問、村民が中心となる開発プロジェクトに関するレクチャーとQ&A。同村にてコミュニティバンク訪問、若者と意見交換会、小学校訪問、ホームステイ(2泊)なども行った。



インド・ケーララ州の若者と交流や意見交換を行った

▼行程

	場所	詳細
7/28-29	シンガポール→コーチン(南インド)へ	シンガポールにて下船→移動
7/30	コーチン市→IRTC(KSSPの研修施設)	IRTCの施設・プロジェクト見学
7/31	IRTC→エレバンチェリー村	村による歓迎式典、小学校訪問など。ホームステイ
8/1	エレバンチェリー村	村議会訪問など。ホームステイ
8/2	エレバンチェリー村→IRTC→コーチン市	IRTCの施設・プロジェクト見学
8/3	コーチン市	市内にて自由行動→コーチンにて船に合流

▼評価・成果・課題

- ・村人主体の開発のあり方、当事者の主体性や誇りを実感できた。
- ・ホームステイ、学校訪問、とくに若者との意見交換の機会は貴重であった。
- ・IRTCの行うプロジェクトの家庭での活用の様子は分かりにくかった。
- ・雨など天候により行程が不安定であった(小水力発電所に行けなかった等)。

【ユニット1報告会】

8月9日 18:20~19:40 船内スターライトホールにて 150名

スライドショーを使ったインドの概要、KSSPの説明、IRTCのプロジェクト、ホームステイの様子の説明と感想。寸劇を使ったインドのカルチャーショック紹介。パネルディスカッション形式によるケーララの地域開発のあり方に関する発表、スライドショーを使ったインドの豊かさとは、日本の豊かさとはという観点でのまとめ。

【ユニット1全体評価・成果・課題】

- ・インドを例とした世界の貧困・格差の現状を知り、その一部を自らの目で見て体験することができた。
- ・開発とエネルギーの関連性を理解し、持続可能な社会作りに向けた地域の取り組みの例を学ぶことができた。
- ・GDPなどの経済的豊かさとは別の指標の「豊かさ」を考えることができた。
- ・洋上日数が少なく、ゼミや講座で習得すべき基礎知識がやや不十分であった。

2. UNIT 2 「ドイツで学ぶ、原発のいない社会づくり」

コーチン～フンシャル区間(8月4日～9月2日)

2022年までに脱原発を決めたドイツがその実現を目指して行う市民レベル、地域レベル、政府レベルの取り組みを知り、その成功例や挑戦から日本の脱原発へのヒントを探る。

ナビゲーター:ミランダ・シュラーズ [ベルリン自由大学環境政策研究所所長](コーチン～ピレウス区間乗船、ドイツエクスポージャーに同行)

【洋上プログラム】

▼概要 ゼミや必修講座などをおしてドイツの環境政策、社会や政治、歴史などに関する知識をつけ、特に市民社会が主体となって進める再生可能エネルギーを基軸とした社会作りの可能性について考えた。福島原発事故の現状や原子力をめぐる日本のエネルギー事情や政策、事故がドイツに与えた影響などを学び、キプロスより合流した福島の大学生7名を迎えて今後の日本のエネルギーのあり方について議論した。知識だけでなく視点を養うため多くのディスカッションやワークショップを行った。

◇ゼミ 90分×13回／必修講座 80分×9回／映画を使った学習×2回／補修×数回／おすすめ講座×多数／その他(イランISと意見交換など)

▼スケジュール

日付	タイトル	内容	日付	タイトル	内容
8/5	ゼミ①	ユニット1振り返り・ユニット2導入	8/17	クシャダス	
8/6	ゼミ②	ドイツの環境・エネルギー政策 概論	8/18	ドイツエクスポージャー (ピレウス～チビタベッキア)	
8/7	必修講座	ミランダ・シュラーズ「ドイツの脱原発」	8/19		
	必修講座	ミランダ・シュラーズ、鎌田慧、豊田直巳(対談)「世界から見た日本と福島原発事故」	8/20		
	ゼミ③	福島原発事故の概要、現況	8/21		
8/8	ゼミ④	日本の原発政策の歴史と問題点	8/22		
8/9	ゼミ⑤	脱原発の利点と問題点①(ワークショップ)	8/23	モナコ	
	必修講座	前田哲男「原発と核武装」	8/24	マルセイユ	
8/10	必修講座	ミランダ・シュラーズ「脱原発と経済」	8/25	バルセロナ	
	ゼミ⑥	脱原発の利点と問題点②(ワークショップ)	8/26	ゼミ⑩①	
8/11	ゼミ⑦	脱原発に向けたドイツの取り組み①	8/27	必修	ドイツエクスポージャー振り返り イランISとディスカッション
	映像	映画『100,000年後の安全』	8/28	マラガ	
8/12	必修講座	ミランダ・シュラーズ「ヨーロッパのエネルギー革命」	8/29	カサブランカ	
	ゼミ⑧	脱原発に向けたドイツの取り組み②	8/30	ゼミ⑩②	ドイツエクスポージャー振り返り
ゼミ⑨	エクスポージャーに向けて 訪問地紹介および説明	必修講座		伊藤千尋「市民から始まる自然エネルギー」	
8/13	必修講座	豊田直巳「福島の写真と報告」	8/31	フンシャル	
	映像	映画『シェーナウの想い』	9/1	休み	
8/14	スエズ運河		9/2	ゼミ⑩③	ユニット2まとめと振り返り
8/15	リマソール		9/3	必修講座	福島ユースプロジェクト「福島の大学生紹介」
8/16	ゼミ⑩④	エクスポージャーに向けて これまでの内容振り返り	9/5	ユニット2報告会	
	必修講座	鎌田慧「六ヶ所村の歴史」			

【エクスポージャー】 「ドイツで学ぶ、原発のない社会への転換」

▼日程 8月18日～8月23日 ピレウス～チビタベッキア区間5泊6日



▼概要と目的 原発への依存度を減らしつつ再生可能エネルギーの普及をすすめるドイツにて、市民参加型のエネルギー転換をどのように行っているかを見聞する。

▼カウンターパートナー／受け入れ先 ミランダ・シュラーズ

地球大学ナビゲーターとして乗船したミランダ・シュラーズ氏が地球大学スタッフとともにツアーの行き先を選定し、ツアーコーディネートをを行った。

▼主な訪問地と内容 フランクフルト市内にて徒歩及びバスにて環境ツアー(都市開発計画、エネルギー効率の高い建築「パッシブハウス」など)。元炭鉱の街ポトロップにて、市民参加型の再生可能エネルギー普及プロジェクトに関する市長のレクチャー、Q&A。ポトロップ市内見学。原発として建設されたが稼働せずに遊園地となった施設「カルカー遊園地」訪問、元技術者による園内ツアー。ベルリンにて若者の環境団体「ブント青年部(BUND Jugend)」と意見交換、街頭アクション。市内のオーガニック農場にて経営者のレクチャー、Q&A。国会議事堂(100%再生可能エネルギーでまかなう)、ユダヤ人犠牲記念碑、ベルリンの壁、チェックポイントチャーリー等見学。

▼行程

	場所	詳細
8/18	ピレウス→フランクフルト(ドイツ)	ピレウスにて下船、終日移動
8/19	フランクフルト市内→ドゥイスブルグ	フランクフルト市内にて環境ツアー
8/20	ドゥイスブルグ→ポトロップ→カルカー遊園地→ベルリン	ポトロップ市長によるレクチャー、ポトロップ市内見学、カルカー遊園地訪問
8/21	ベルリン	ブント青年部訪問、街頭アクション、オーガニック農場訪問、国会議事堂、ユダヤ人犠牲記念碑見学
8/22	ベルリン→ローマ	ベルリンの壁、チェックポイントチャーリー等見学、自由行動
8/23	ローマ→チビタベッキア	自由行動、チビタベッキアにて船に合流

▼評価・成果・課題

- ・小規模都市、大規模都市における住民参加型の環境政策の転換の例を見ることができた。
- ・パッシブハウスなどの高エネルギー効率の建築物を見る機会は貴重であった。
- ・同年代の若者との意見交換、街頭アクションでドイツの市民活動を垣間見ることができた。
- ・カルカー遊園地にて元原発施設に入り、当時の技術者の話を聞いたことは学生にとって興味深かった。
- ・国レベルの環境政策の話を直接担当者から聞くことができなかった(夏休みのため)。
- ・どこで話を聞く人も真剣に自国の未来のことを考え、行動を起こしている様子が非常に刺激的であった。
- ・福島ユースプロジェクトおよびフクシマ・アウェアネス・プロジェクトの学生がローマにて取材を受け、イタリア国営放送のラジオ「Radio 3」、雑誌「インテルナツィオナーレ(Internazionale)」などのメディアに取り上げられた。

【推奨ツアー】

8月25日 マルセイユ(フランス) 「フランスで学ぶ 未来のエネルギー」

送電網から自らを切り離し、自然エネルギーにてエネルギーを自給する施設「ルバタスセンター(Le Loubatas)」(<http://www.loubatas.org/>)を訪問、施設やプロジェクトの見学。核融合実験炉(ITER)施設を車窓より見学。

【ユニット2報告会】

9月5日 16:40~18:00 船内ブロードウェイホールにて 300名

スライド、写真等を使ったドイツの環境政策の歴史と現状、福島原発事故を受けたドイツの動き、ドイツで訪問した場所の紹介、説明。学生たち自身の感想や意見。

【ユニット2全体評価・成果・課題】

- ・脱原発を決めたドイツのエネルギー政策の歴史、現状と展望を知り、それを現地に行き実例を通して学ぶことができた。
- ・ドイツの例から「日本でもエネルギー転換をできるかもしれない」という感触を得た学生が多かった。
- ・イランの若者たちと原発をはじめとした社会問題について意見交換できた機会は貴重であった。
- ・学生たちがゼミで学んだことをほかの船旅参加者に向けて自主企画として発表するようになった。



ドイツ・フランクフルトにて市の担当職員から都市計画の話聞く



船で行ったイラン IS とのディスカッション

3. UNIT 3 「『原発のない社会』に向けて」

サントドミンゴ～横浜区間(9月7日～9月28日)

原発をはじめとしたエネルギー問題を含め「持続可能な社会」がどのようなものかを具体的にイメージし、それを日本でも世界でも実現するために一人ひとりに何ができるかを考える。

ナビゲーター:リカルド・ナヴァロ [FoE インターナショナル元代表](サントドミンゴ～アカフトラ区間船)

【洋上プログラム】

▼概要 ゼミや必修講座をととして「持続可能な社会」の定義付けを改めて行い、世界で起きているさまざまな問題同士の関連性を可視化する作業を行った。行動を起こす方法を学ぶとともに、実際に地域活動を通じて持続可能な社会作りをはじめている船旅参加者にインタビューを行い、発表した。ワークショップやグループワーク、ディスカッションを中心に行い、地球一周をととした学びの集大成として全員で最終報告会を行った。

◇ゼミ 90分×14回／必修講座 80分×3回／映画を使った学習×1回／特別企画 90分×3回／おすすめ講座 多数／補修×数回

▼スケジュール

日付	タイトル	内容
9/7	ゼミ①	ユニット3導入、世界貿易ゲーム
	特別企画	広島・長崎の被爆者の方々とQ&A
9/8	ゼミ②	世界の貧困のしくみ
9/9	サントドミンゴ	
9/10	ゼミ③	気候変動、エネルギー、貧困と持続可能性
	必修講座	福島ユース高野桜さん証言「福島原発事故と私」
9/11	モンテゴベイ	
9/12	必修講座	リカルド・ナヴァロ「持続可能性とは何か」
	ゼミ④	持続可能性とは(1) 南北問題と環境問題
9/13	クリストバル	
9/14	パナマ運河	
	特別企画	キャスリン・サリバン「アクティビストになろう」(ワークショップ)
9/15	必修講座	リカルド・ナヴァロ「世界の貧困と環境の関係」
	ゼミ⑤	持続可能性とは(2) つながりワークショップ
9/16	ゼミ⑥	持続可能性とは(3) 持続可能性と豊かさ
	特別企画	キャスリン・サリバン「原爆と原発」(ワークショップ)
9/17	アカフトラ	
9/16	アカフトラ	
9/19	ゼミ⑦	エルサルバドル振り返り
9/20	ゼミ⑧	アドボカシーワークショップ
9/21	マンサニージョ	
9/22	お休み	グループごとに日本で地域活動を行う人にインタビュー
9/23	ゼミ⑨	前日のインタビューまとめ
9/24	ゼミ⑩	公開ゼミ インタビューしたものの発表
9/25	ゼミ⑪	松村豪太「石巻の再生と地域活動」(ワークショップ)
9/26	ゼミ⑫	地域活動と社会変革(ワークショップ)
9/27	ゼミ⑬	これからのエネルギーのあり方(ワークショップ)
9/28	ゼミ⑭	まとめ
9/29	報告会準備(～以降本番前日まで)	

【推奨ツアー】

9月17～18日 アカフトラ(エルサルバドル) 「『環境にやさしい』生活を学ぶ」

地球大学ナビゲーターのリカルド・ナヴァロ氏が創設したエルサルバドル最大の環境 NGO「セスタ (CESTA)」を訪問し、自転車プロジェクトや河川汚染に対するプロジェクトなど、環境問題や社会問題を解決するために行っている取り組みを見聞した。

【ユニット3全体評価・成果・課題】

- ・持続可能性についてグローバルな視点で考え、その実現のためにローカルに行動する意味を一人ひとりが見いだすことができた。
- ・世界で起きている地球規模課題同士の繋がりを理解し、その一部に自らが関わることで大きな変化の力になると実感できた。
- ・エネルギー問題と自分のつながりを認識し、自らの行動から社会を変えていくきっかけをつかむことができた。
- ・抽象的な理論と具体的な行動とのつながりが見えづらかった受講生も少なからずいた。



船内にて行われた公開ゼミで発表をする地球大学生



エルサルバドルにて行われた推奨ツアーにて NGO 職員から水の汚染に関する話を聞く

4. 地球一周まとめ

【最終報告会】 10月3日 「Be the Change!～私たちが実現したい未来～」

13:30～17:00 船内フリースペースを貸し切り、学んできた内容(エネルギーについて、福島の実況、持続可能性とは、ワークショップで使用した模造紙など)の展示、子ども向けの紙芝居、他の参加者を対象とした参加型ワークショップなど。

18:00～19:30 ブロードウェイにて報告会、150名。パネルディスカッションや寸劇形式にて原発、自然エネルギー、持続可能性について学生自身の視点を加えながら発表、下船後のアクションを地球大学生全員が宣言。



最終報告会の様子

【地球一周全体の評価・成果】

- ・インド・ドイツそれぞれのケーススタディから、エネルギー問題と開発・環境・経済などの問題との関連性を学び、さまざまな地域や例を比較しながらグローバルな視点で持続可能性について考えることができた。
- ・原発とその問題点、福島原発事故の現状と日本のエネルギー政策の問題点を認識し、今後のエネルギーのあるべき姿を描くことができた。
- ・地球一周をとおして得た学びと今後の行動への決意を報告会で全員が表現することができた。
- ・地球一周をとおし、地球大学生同士の強い繋がりや仲間意識を築くことができた。
- ・福島原発後の日本社会や政治についての知識習得がやや足りず、一人ひとりの行動からどのように日本を変えていくかというビジョンを具体的に描ききれなかった。
- ・地球大学のカリキュラムが忙しく、他の企画に望んでいたほど参加できなかった地球大学生も多かった。
- ・船内の地球大学以外のプロジェクトや企画が多かったため、地球大学生の自主企画や報告会に他の参加者を思うほど集めることができなかった。

IV. STEP3 下船後 ～経験を行動へ～

【地球大学報告会】

ピースボートセンターとうきょう(12月1日)にて、地球一周の船旅を終えた地球大学生による報告会を行った。ピースボートセンターおおさかでも開催予定(2014年1月15日)。

【NGO・NPOでインターン活動】

2013年12月現在、1名がNGOにてインターン中、1名がNGOに就職。1名が青年海外協力隊(JICA)に応募中、ほか数名がNGOにてインターンに応募をしている。

ピースボート事務局
地球大学担当:高山瑤子

169-0075
東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1
03-3363-7561
univ@peaceboat.gr.jp
<http://www.peaceboat.org/projects/univ/>